

令和4年度中津市観光アンケート調査報告書

令和5年3月
観光推進課

目次

1	調査概要	P3
2	本調査総括	P7
3	本調査の結果分析	
	○属性分析	P10
	○問1分析	P13
	○問2分析	P15
	○問3分析	P17
	○問4分析	P18
	○問5分析	P20
	○問6分析	P21
	○問7分析	P23
	○問8分析	P24
	○問9分析	P26
	○問10分析	P27
	○問11分析	P27
	○問12分析	P28

※注意

割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

1 調査概要

○調査の目的

本調査は、中津市へ来訪する観光の動態を把握するために平成 30 年度（2018 年度）から開始した。

従来の観光動態調査（中津市観光入込客数調査、市内宿泊者数調査）の方法では捉えられなかった観光客の属性や観光の実態等を把握し分析することで、より効果的な観光事業を実施し、また、調査結果を地域へフィードバックし、地域一体となった観光まちづくりを目的としている。

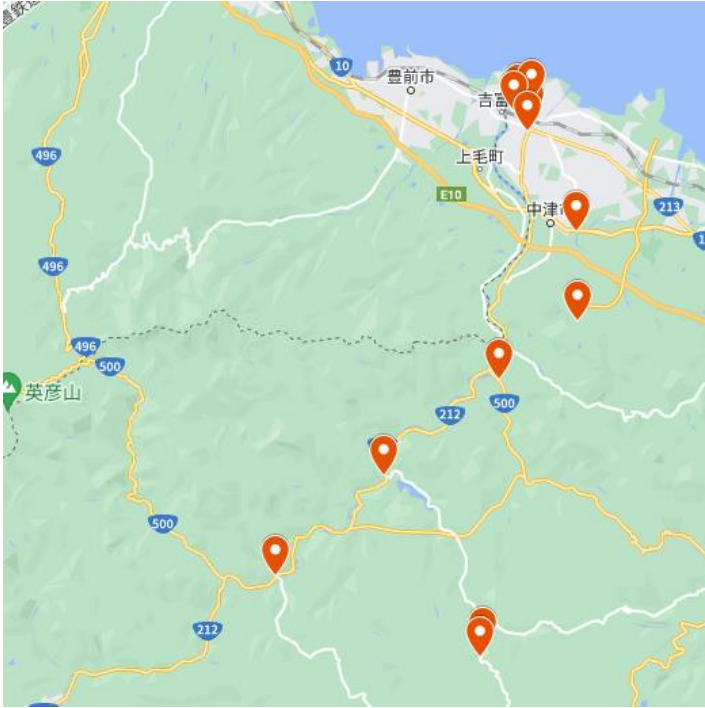
○調査方法（二次元バーコード設置による調査）

観光マーケティング調査の一環として、従来はGWシーズンや秋の紅葉シーズンに、聞き取りにてアンケート調査（2人1組×3班、各3時間）を行っていたが、時期、場所の偏りがあること、聞き取り人数が限られるという課題点があった。

そこで、今年度は観光施設等に常設で二次元バーコード読み込み式のアンケートを設置した。

○二次元バーコードの設置場所

旧市内エリア	①中津駅
	②福澤記念館
	③中津市歴史博物館
	④道の駅なかつ
	⑤南部まちなみ交流館 ※令和4年8月8日～
	⑥あげ処ぶんごや※令和4年8月10日～
三光エリア	⑦八面山荘
本耶馬溪エリア	⑧道の駅耶馬トピア
耶馬溪エリア	⑨耶馬溪サイクリングターミナル
	⑩深耶馬溪観光案内所
	⑪深耶馬溪にある蕎麦の店舗（7店舗）※令和4年10月13日～
山国	⑫道の駅やまくに

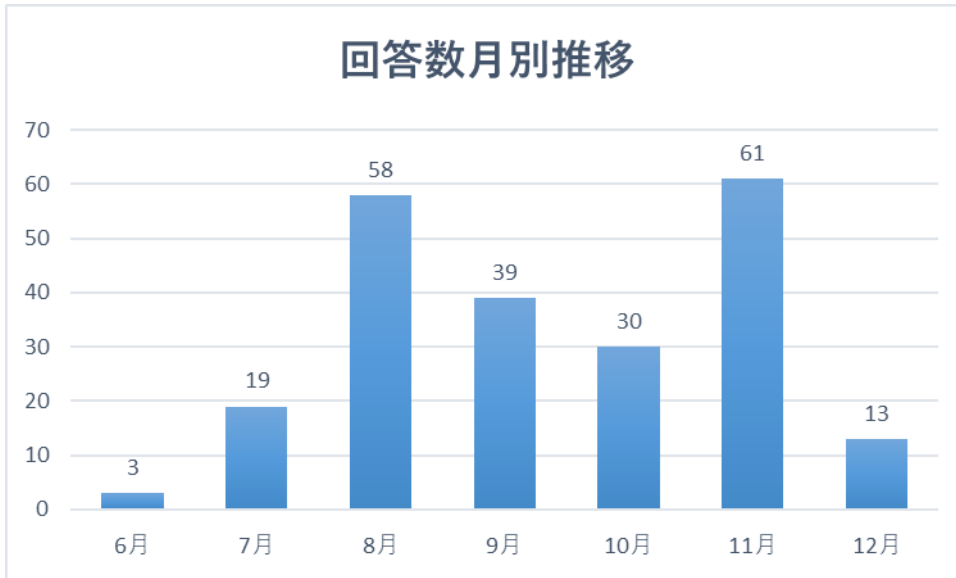


アンケート設置場所（引用元：Google 社「Google マップ、Google Earth」）

○調査期間及び収集サンプル数

令和4年6月27日～同年4年12月28日 収集サンプル数 合計223名

・回答数月別推移



※アンケート調査期間中の影響事由

■増加要因

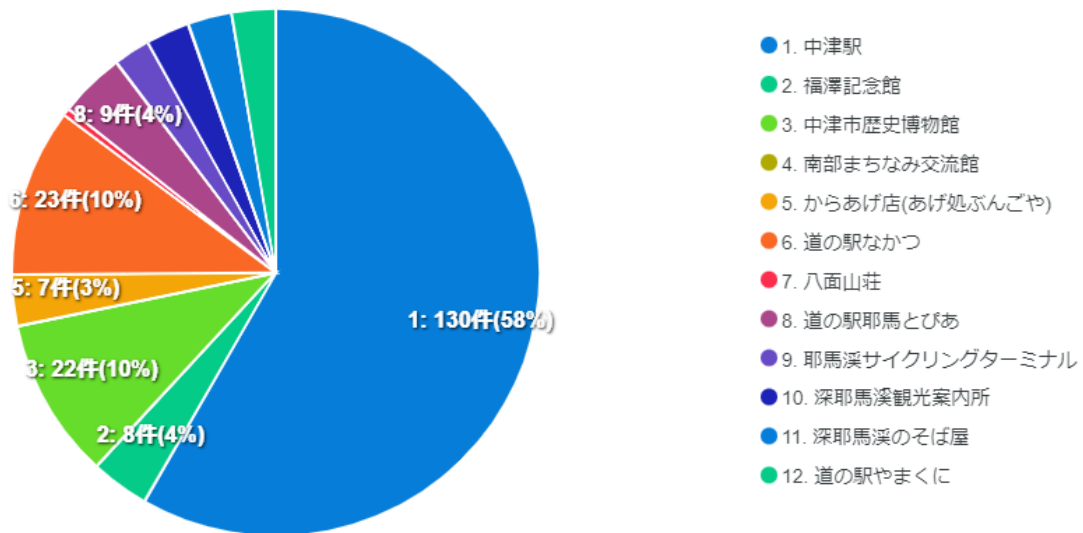
- ・ 7月23日、7月24日 中津祇園
- ・ 7月中旬～8月下旬 夏休み期間
- ・ 7月30日～8月8日 なかつ旅っチャ マジ得！なかつやばけいグルメキャンペーン
- ・ 7月30日～10月31日 2022なかつやばけいグルメでスタンプラリー
- ・ 10月9日～10月30日 三光コスモス園 開園期間
- ・ 10月11日～12月27日 全国旅行支援実施期間
- ・ 10月29日、30日 からあげフェスティバル
- ・ 10月下旬～11月中旬 紅葉シーズン

■減少要因

- ・ 7月1日～9月30日 新型コロナウイルス第7波

○回答場所

中津駅	130名
福澤記念館	8名
中津市歴史博物館	22名
南部まちなみ交流館	0名
からあげ店(あげ処ぶんごや)	7名
道の駅なかつ	23名
八面山荘	1名
道の駅耶馬トピア	9名
耶馬溪サイクリングターミナル	5名
深耶馬溪観光案内所	6名
深耶馬溪のそば屋	6名
道の駅やまくに	6名
合計	223名



○質問事項

・調査日 ・居住地域 都道府県／市町村 ・性別／年齢

- 問1. このアンケートの二次元バーコード読み込み場所を教えてください。
- 問2. 今回の中津（耶馬溪を含む）旅行は何回目になりますか。（4 択中 1 つ選択）
- 問3. 今回の旅はどれに該当しますか。（8 択中 1 つ選択）／来訪人数
- 問4. 今回の旅はいつ計画しましたか。（5 択中 1 つ選択）
- 問5. 今回の旅の情報源を教えてください。（1 1 択中複数選択可）
- 問6. 今回の旅の目的を教えてください。（6 択中複数回答可）
- 問7. 今回の旅はどれに該当しますか。（3 択中 1 つ選択。記入あり）
- 問8. 今回の旅全体の予算額を教えてください。（金額記入）
- 問9. 今回の旅の交通手段を教えてください。（1 1 択中複数選択）
- 問10. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます（した）か。（2 1 択中複数選択）
- 問11. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。（自由記述）
- 問12. 再び、なかつに旅行に来たいと思いますか？（5 択中 1 つ選択）
- 問13. 中津市内の観光で困ったことはありますか。（自由記述）

2 本調査総括

(1) 新型コロナウイルスの影響と回復について

新型コロナウイルスの影響でマイクロツーリズム化※が顕著だった前年と比較すると、九州・沖縄地方以外からの来訪者が増加し、遠方からの観光客が回復傾向にある。

遠方からの観光客増加に伴い、宿泊者割合の増加、予算額の増加、旅の準備期間の長期化等の影響が見受けられる。

(2) 調査方法の変更による影響について

今回、アンケートの調査方法を変更したことにより、以下の事由に影響があった可能性がある。

- ①年齢のボリュームゾーンが30代、40代と若年化しているが、アンケートの調査方法が二次元バーコード読み込み式であったため、その年代とマッチングしやすかったことも一因と考えられる。
- ②旅の決定要因が、前年は調査時期が紅葉最盛期であったため、自然等が37.3%であったが、今年度は調査期間が長期だったため、割合が前年比で13.6%減少したと考えられる。
- ③旅の目的地が、前年で一番高かった一目八景（深耶馬溪）が、前年比で42.5%減が見られた。これは前年の調査地点が4地点しかなく、そのうちの一つの一目八景（深耶馬溪）にて紅葉最盛期に聞き取り調査を行ったことにより、前年の割合が一目八景（深耶馬溪）に偏っていたことが考えられる。グルメの割合で、前年比でそばの回答が減少した理由も同様と考えられる。
- ④旅の予算が前年と比べ、14,282円も増加した理由については、前年は、一目八景（深耶馬溪）の回答者割合が高く、飲食店等しか利用せず消費額が低いこと、通過型観光がメインの旅行者が多いこと等が要因の一つと考えられる。その他の要因については、全国旅行支援により、消費額の底上げもあったと推測される。
- ⑤旅の交通手段について、自家用車の割合が前年比38.9%減となり、電車（在来線）の割合が前年比20.5%増となった理由についても、一目八景（深耶馬溪）の回答者割合の低下と、中津駅の回答者割合の増加が影響していると考えられる。

(3) その他について

SNS、インターネットの情報は、毎年増加傾向にある一方で、新聞や旅行雑誌の割合が減っている。今後も積極的なインターネット・SNSを活用した広告が求められる。

また、宿泊者数の割合も増加したが、宿泊者数の全体で見れば、半数は市外宿泊者であるため、今後も市内宿泊者を増やす取り組みが必要となる。

※マイクロツーリズム：自宅から約1時間の移動圏内で観光する近距離旅行。

(居住地)

新型コロナウイルスのワクチン接種の推進、全国旅行支援の実施等の影響により、前年と比較し、九州・沖縄地方以外の来訪者数割合が増加した。

特に、関東地方は全体の14%（前年比10%増）、近畿地方は、10%（前年比6%増）となり、増加傾向が強い。

九州・沖縄地方からの来訪者割合は、63%（前年比19.3%減）となり、市町村別では、大分市、福岡市、北九州市が上位3位となっている。

(年齢)

年齢層は30代が最も多く、26.9%、次いで40代が26%、50代が17%となっている。前年は、60歳以上が30.4%を占めていたが、今年は、12.1%に留まった。

(訪問回数)

訪問回数は、前年と変わらず4回以上のリピーターが48%と最も多く、次いで初めてが約29.6%を占めた。

(旅形態)

家族旅行の割合が49.3%と半数を占めた。次いでひとり旅が21.5%、出張が9.4%となり、前年と比べ割合が増加した。

(旅の準備期間)

1週間以内に計画している旅行者の割合が34.5%（前年比26.9%減）となった。九州・沖縄地方以外の来訪者割合が増えたことに伴い、1か月～3か月前に計画している旅行者が20.2%（前年比12.6%増）となり、増加傾向にある。こうしたことから、出発地が遠方ほど準備期間も長くなる傾向にある。

(旅の情報源)

旅の情報源は、インターネットの情報30.4%、経験16.5%、観光パンフレット14.5%の順であった。インターネットの情報やSNSは年々増加傾向にあり、合計で10.4%増加した。一方で、新聞、テレビは前年に比べ、減少傾向である。

(旅の決定要因)

旅の決定要因は、グルメ34.3%、自然23.7%、歴史文化20.3%、イベント10.3%が上位となった。

(日帰り・宿泊)

日帰りの割合が、54.7%（前年比15.9%減）となり、宿泊の割合は市内、市外を含め全体の42.6%（前年比14.2%増）で、宿泊の割合が増加傾向にある。市内宿泊は22.4%、市外宿泊は20.2%となった。

(予算額)

全体（宿泊+日帰り）で28,681円となり、前年と比べ14,282円増額した。宿泊と日帰りそれぞれの予算も、前年と比べ増加傾向となった。

(交通手段)

前年と比べ、自家用車の割合は30.6%（前年比38.9%減）となった。中津駅で二次元バーコードを設置した影響もあり、電車（在来線）の割合が27%となった（前年比20.5%増）。

(目的地)

からあげ店が42.6%（前年比11.6%増）と一番高い結果となり、次いで、中津城が39.5%（前年比17.1%増）、道の駅なかつが25.1%（前年比10.6%増）となった。前年で一番高かった一目八景（深耶馬溪）は、12.6%（前年比42.5%減）となった。

(グルメ)

心に残ったグルメは、中津からあげが44.8%（前年比24%増）、鱧が8.5%（前年比7.5%増）となった一方で、そばは1.8%（前年比5.1%減）と減少した。無回答が16.6%（前年比41.2%減）となった。

(中津への再来訪)

中津へ再び来たいと思う割合は、そう思う・まあ思うと回答した旅行者が95.5%だった。

【今後の取り組み】

観光者数、宿泊者数は回復傾向にある。市内周遊を促すような取り組みを行い、滞在時間の延長、市内宿泊者数の増加を図る必要がある。

3 調査結果の分析

■来訪者属性（居住地、性別、年齢）

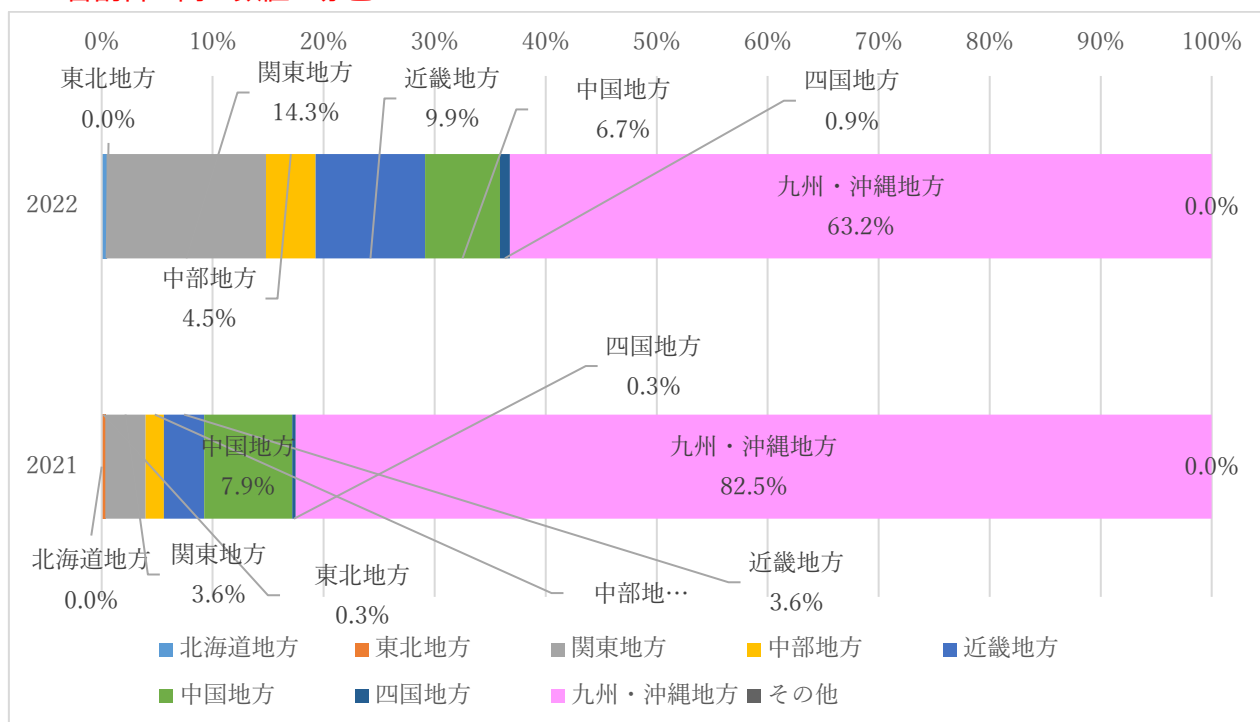
○居住地（記入方式）

居住地 都道府県： 市町村：

●地方区分別（8地方区分）：回答率：100%

大区分	中区分	人数	割合	前年割合 (参考)	増減
北海道	北海道地方	1	0.4%	0.0%	0.4%
本州	東北地方	0	0.0%	0.3%	-0.3%
	関東地方	32	14.3%	3.6%	10.7%
	中部地方	10	4.5%	1.7%	2.8%
	近畿地方	22	9.9%	3.6%	6.2%
	中国地方	15	6.7%	7.9%	-1.2%
四国	四国地方	2	0.9%	0.3%	0.6%
九州・沖縄	九州・沖縄地方	141	63.2%	82.5%	-19.3%
外国	その他	0	0.0%	0.0%	0.0%
合計		223	100.0%	100.0%	

※一番割合が高い数値 赤色



●内訳（九州・沖縄）：回答率100%

県名	人数	割合	前年割合 (参考)	増減
福岡県	81	57.4%	64.4%	-7.0%
佐賀県	5	3.5%	2.8%	0.7%
長崎県	3	2.1%	3.2%	-1.1%
熊本県	5	3.5%	1.6%	1.9%
大分県	45	31.9%	25.6%	6.3%
宮崎県	0	0.0%	1.2%	-1.2%
鹿児島県	1	0.7%	0.8%	-0.1%
沖縄県	1	0.7%	0.4%	0.3%
合計	141	100.0%		

※一番割合が高い数値 赤色

●自治体別上位：回答率96.7%

順位	都道府県名	市町村	人数
1	大分県	大分市	25
2	福岡県	福岡市	22
3	福岡県	北九州市	19
4	大分県	日田市	7
5	大阪府	大阪市	6
6	福岡県	豊前市	5
6	大分県	速水郡日出町	5

新型コロナウイルスのワクチン接種の推進、全国旅行支援の実施等の効果により、前年と比較し、九州・沖縄地方以外の来訪者数割合が増加したと考えられる。

特に、関東地方は全体の14%（前年比10%増）、近畿地方は、10%（前年比6%増）となり、増加傾向が強い。

九州・沖縄地方からの来訪者割合は、63%（前年比19.3%減）となった。市町村別では、大分市、福岡市、北九州市が上位3位となっている。

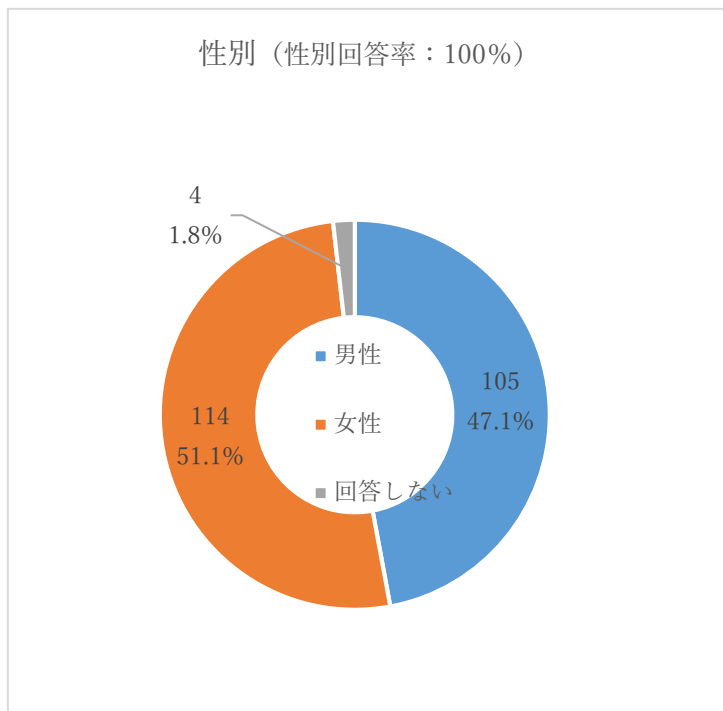
○ 性別・年齢

●性別

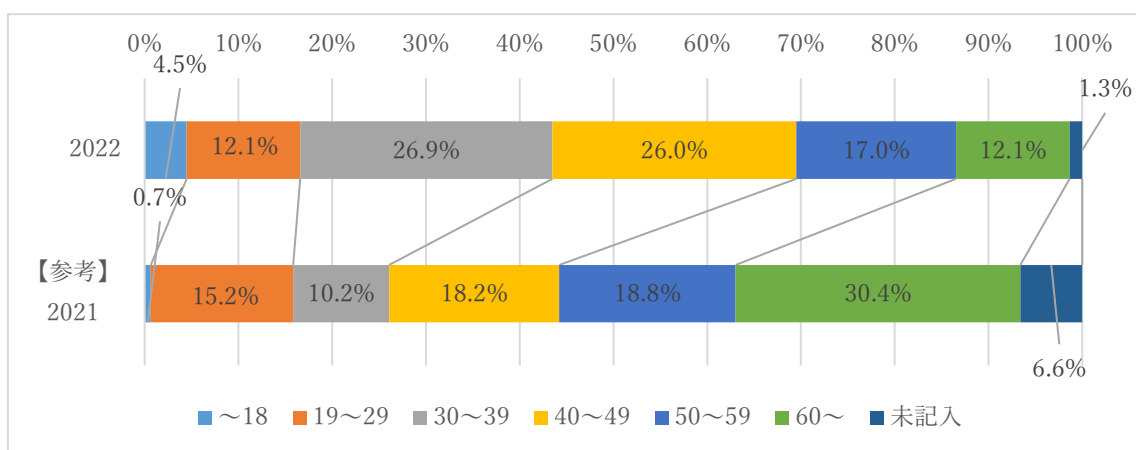
選択式

性別：□ 男性 □ 女性 □ 回答しない

男性105名 女性114名 回答しない4名 合計223名



●年齢別：回答率98.7%

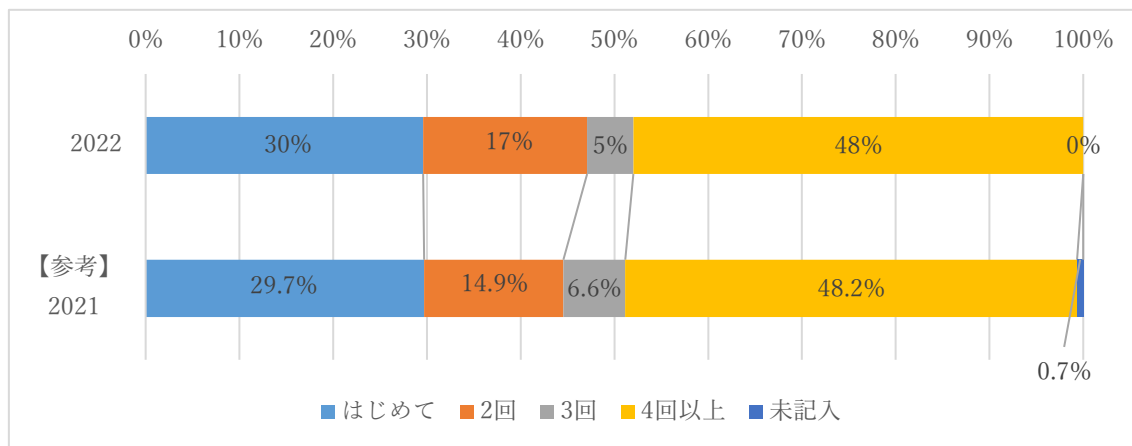


男女比は、ほぼ同数といってよい。前年は、60歳以上が30.4%を占めていたが、今年は、12.1%に留まった。その一方で30代、40代の割合が増加傾向にある。

問1. 今回の中津（耶馬溪を含む）旅行は何回目になりますか。（1つに✓印）

初めて 2回 3回 4回以上

●旅行回数 回答率：100%



●旅行回数（順位・都道府県）

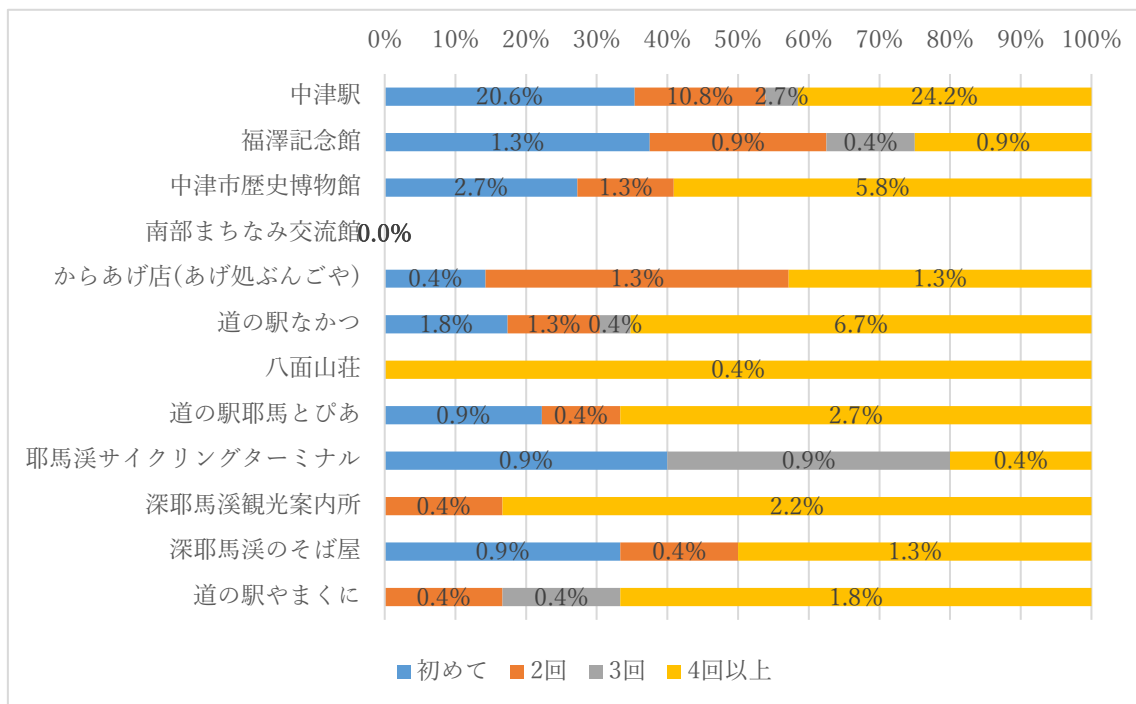
初めて来る旅行者の割合が高い県

順位	初めて	人数
1	福岡県	17
2	東京都	6
2	大阪府	6
4	大分県	5

4回以上のリピーターの割合が高い県

順位	4回以上	人数
1	福岡県	48
2	大分県	27
3	東京都	8
3	神奈川県	5

●旅行回数（調査場所別）回答数：98.7%



今年は前年と比較し、割合自体に大きな変動はなかった。

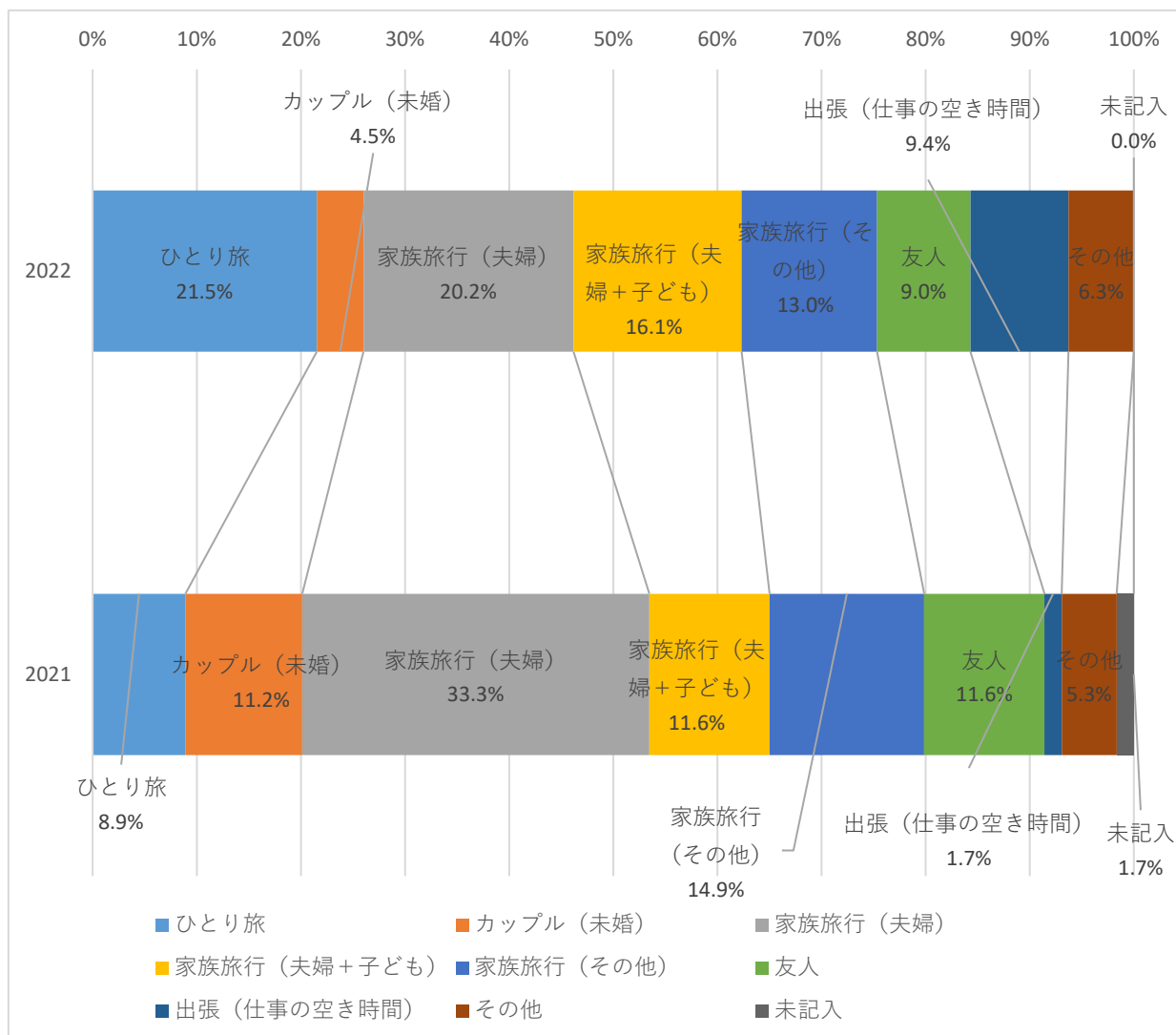
旅行回数が「初めて」と「4回以上」の都道府県別の順位を見ると、どちらも前年同様に福岡県が最も多くなったが、「初めて」については、東京都、大阪府が次に来ており、前年の大分県を抜く結果となった。

調査したスポット別に、訪問回数を見ると、「初めて」の回答の大部分は中津駅となっている。また、「4回以上」の回答が過半数を超えたのは、中津市歴史博物館、道の駅なかつ、八面山荘、道の駅耶馬トピア、深耶馬溪観光案内所、道の駅やまくにの6施設となった。

問2. 今回の旅はどれに該当しますか。(1つに✓印)

- ひとり旅 カップル（未婚） 家族旅行（夫婦） 家族旅行（夫婦+子ども）
家族旅行（その他） 友人 出張（仕事の空き時間） その他

●旅形態 回答率：98.3%

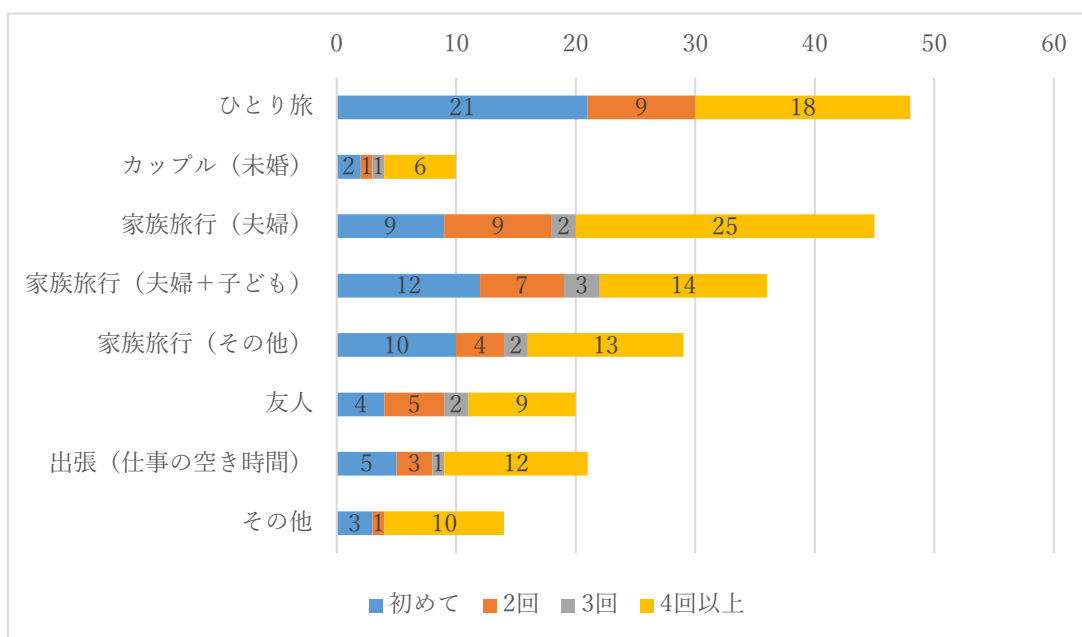


●年齢（構成別）

	～18	19 ～29	30 ～39	40 ～49	50 ～59	60～	未回答
ひとり旅	0.9%	6.3%	5.4%	4.0%	3.1%	1.3%	0.4%
カップル (未婚)	0.0%	1.3%	0.4%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
家族旅行 (夫婦)	0.0%	0.0%	5.4%	4.0%	4.5%	6.3%	0.0%
家族旅行 (夫婦+子 ども)	2.2%	0.4%	5.4%	4.9%	1.3%	0.9%	0.9%
家族旅行 (その他)	0.9%	1.8%	3.6%	4.0%	1.8%	0.9%	0.0%
友人	0.0%	0.9%	3.1%	1.8%	1.8%	1.3%	0.0%
出張(仕事 の空き時 間)	0.0%	0.4%	3.1%	2.7%	2.2%	0.9%	0.0%
その他	0.4%	0.9%	0.4%	1.8%	2.2%	0.4%	0.0%
合計	4.5%	12.1%	26.9%	26.0%	17.0%	12.1%	1.3%

※一番割合が高い数値 赤色

●旅形態（旅行回数別） 回答率：97.7%



家族旅行の割合が合計で49.3%と半数を占めたが、前年と比較すると10.5%割合が下がった。一方でひとり旅が21.5%、出張が9.4%となり、前年と比べ割合が増加した。

来訪人数は平均2.15人となり、前年より0.1人減の微減となった。

年齢別に見ると、19歳～29歳のひとり旅及び60歳以上の家族旅行（夫婦）が多かったが、「家族旅行」という枠でみると、30代が合計14.4%と最も多い。

友人、カップル（未婚）については前年同様、低い結果となった。

また、旅形態を旅行回数別に見てみると、ひとり旅は、中津に来訪するのが初めての割合が多く、その他は4回以上のリピーターの割合が多くなっている。

問3. 今回の旅はいつ計画しましたか。(1つに✓印)

- 1週間以内 1週間～2週間前 3週間～1ヶ月前 1ヶ月～3ヶ月前
 3ヶ月以上前

●旅の準備期間（全体・各項目上位都道府県） 回答数：100%

	回答数	割合	前年割合 (参考)	1位	2位	3位
1週間以内	77	34.5%	61.4%	福岡県 (38)	大分県(19)	山口県(5)
1週間 ～2週間前	52	23.3%	16.8%	福岡県 (21)	大分県(16)	埼玉県, 広島県(3)
3週間 ～1ヶ月前	30	13.5%	10.9%	福岡県 (10)	大分県(6)	東京都(5)
1ヶ月 ～3カ月前	45	20.2%	7.6%	福岡県 (12)	大阪府(7)	大分県(4)
3カ月以上前	19	8.5%	3.3%	東京都 (6)	大阪府, 長崎県(2)	埼玉県 他8県(1)
合計	223	100%	100%			

※一番割合が高い数値 赤色

前年と比べ、1週間以内に旅の計画を行う割合が26.9%分減った。3か月以上前から計画した旅行者の多くは、東京や大阪等の遠方から訪れている。

新型コロナウイルスの影響が弱まり、全国旅行支援が再開したこともあり、計画的に行き先を決めて旅行をする層の割合が増えたと考えられる。

問4. 今回の旅の情報源を教えてください。(複数回答可)

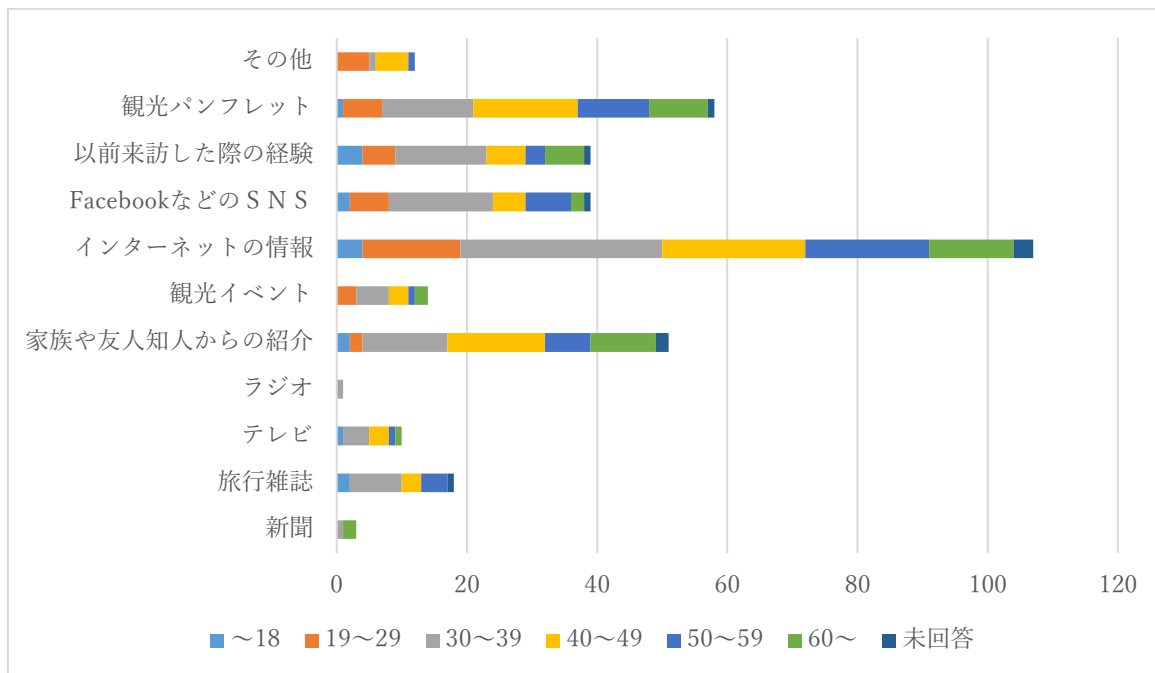
新聞 旅行雑誌
 テレビ ラジオ
 観光パンフレット 観光イベント
 (媒体名・イベント名：)
 インターネット情報 (媒体名：)
 Facebook などの SNS (媒体：)
 家族や友人知人からの紹介
 以前来訪した際の経験

●旅の情報源 (具体例) 回答率：100%

	人数	割合	前年割合 (参考)	具体例
新聞	3	0.9%	0.6%	大分合同新聞
旅行雑誌	18	5.1%	3.5%	じゃらん、るるぶ、まっがる
テレビ	10	2.8%	6.9%	RKB 番組、ラビット
ラジオ	1	0.3%	0.3%	—
家族や友人知人からの紹介	39	11.1%	11.3%	—
観光イベント	14	4.0%	1.3%	JR九州ウォーキング
インターネットの情報	107	30.4%	26.7%	Google、Instagram、じゃらん、youtube
Facebook などの SNS	39	11.1%	4.4%	Instagram、Twitter、Facebook
以前来訪した際の経験	58	16.5%	36.5%	—
観光パンフレット	51	14.5%	6.3%	るるぶ
その他	12	3.4%	2.2%	—
合計	352	100.0%	100.0%	

※一番割合が高い数値 赤色

●旅の情報源（年齢別）



※横軸は回答数

インターネットの情報は3.7%増と、例年増加傾向にある。また、観光パンフレットで情報を得るとい回答も8.2%増加している。

新聞、テレビ、ラジオについては、全体から見ると低い傾向にある。

旅の情報源を年齢別に見ると、SNSは30代までが中心であるが、インターネットの情報については、60歳以上も一定数利用があり、年代による利用の差が見られなかった。

問5. 今回の旅の決定要因を教えてください。(複数回答可)

- グルメ (具体例:) 自然等 (具体例:)
 歴史・文化 (具体例:) イベント (具体例:)
 宿泊施設 (具体例:) その他 (具体例:)

●旅の決定要因 (具体例 (一部)) 回答率: 98.3%

	人数	割合	昨年割合 (参考)	具体例抜粋 (回答数)
グルメ	123	34.3%	27.2%	からあげ (41)、そば (7)、はも (6)
自然等	85	23.7%	37.3%	紅葉 (16)、耶馬溪 (18)、温泉 (2)
歴史・文化	73	20.3%	13.6%	中津城 (25)、福澤諭吉 (8)
イベント	37	10.3%	0.8%	タカラッシュ (3)、コスモス (3)
宿泊施設	13	3.6%	6.2%	市内宿泊施設 (8)、市外宿泊施設 (5)
その他	28	7.8%	14.9%	帰省 (10)、仕事 (3)
合計	359	100%	100%	

※一番割合が高い数値 赤色

前年は、自然等の割合が高かったが、今年はグルメ、歴史文化、イベントの割合が増加した。

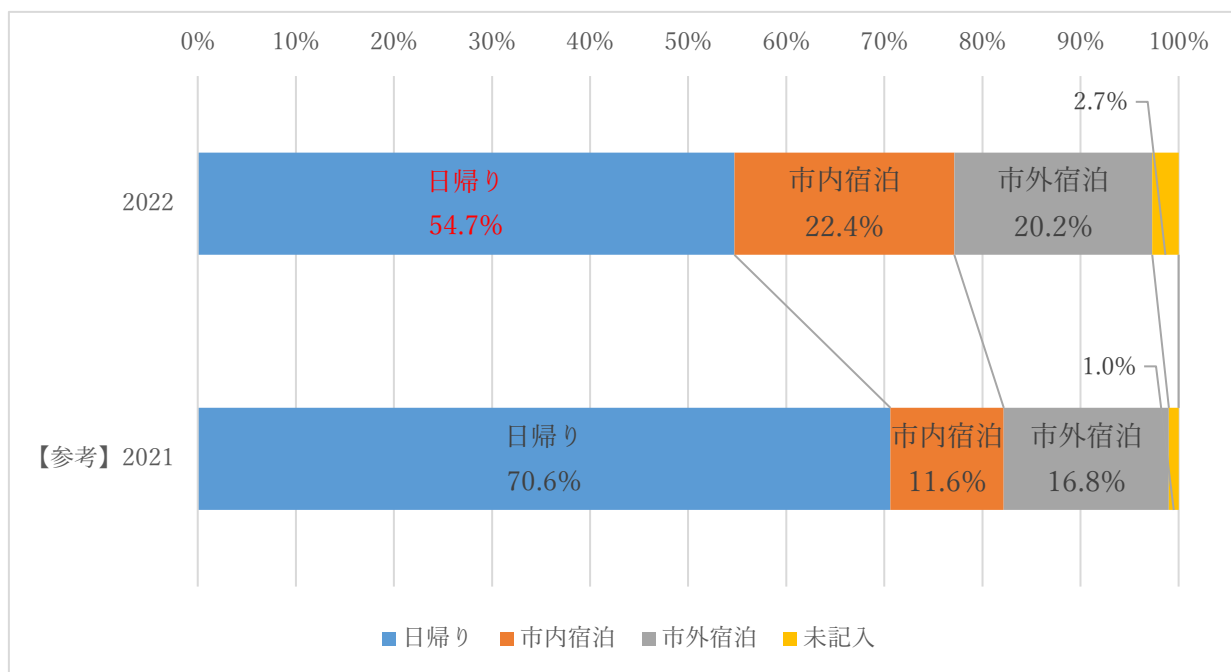
増減原因は、前年の調査方法について、4箇所のみ調査場所を選定していなかったことから、紅葉シーズンの深耶馬溪での回答割合が多く、自然等の割合が高くなっていたのが、今年は、選定箇所の増加と調査期間の長期間化により、回答の偏りが減ったためと考えられる。

宿泊施設を旅の決定要因とした割合は前年からさらに低くなっている。

問6. 今回の旅はどれに該当しますか。(1つに✓印)

- 日帰り (滞在時間: 時間)
- 市内宿泊 (ホテル名) (泊)
- 市外宿泊 (都道府県: 市町村:)

●日帰り・宿泊 回答率：97.3%



※一番割合が高い数値 赤色

●日帰り・滞在時間 回答率：50%

	人数	割合	前年割合(参考)
2時間未満	6	4.9%	7.0%
2時間～4時間未満	17	13.9%	18.7%
4時間～6時間未満	20	16.4%	10.7%
6時間以上	18	14.8%	9.8%
未記入	61	50.0%	53.7%
合計	122	100.0%	100.0%

※未記入を除き一番割合が高い数値 赤色

●市内宿泊・泊数 回答率：90%

	人数	割合	前年割合(参考)
1泊	26	52.0%	37.1%
2泊	8	16.0%	20.0%
3泊	7	14.0%	0.0%
4泊以上	4	8.0%	0.0%
未記入	5	10.0%	42.9%
合計	50	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色

●市外宿泊・宿泊地 回答率：90.2% (複数回答有)

順位	宿泊地		人数	割合
1	大分県	別府市	15	32.6%
2	大分県	大分市	4	8.7%
2	大分県	宇佐市	4	8.7%
2	大分県	日田市	4	8.7%
2	大分県	竹田市	4	8.7%
6	福岡県	福岡市	2	4.3%
7	福岡県	豊前市	1	2.2%
7	福岡県	吉富町	1	2.2%
7	山口県	下関市	1	2.2%
7	大分県	杵築市	1	2.2%
7	福岡県	上毛町	1	2.2%
7	大分県	熊本市	1	2.2%
7	福岡県	太宰府市	1	2.2%
7	大分県	豊後高田市	1	2.2%
7	鹿児島県	鹿児島市	1	2.2%
7	大分県	佐伯市	1	2.2%
7	大分県	由布市	1	2.2%
	未記入		2	4.3%
合計			46	100.0%

【参考】前年上位

順位	宿泊地		人数	割合
1	大分県	別府市	22	40.7%
2	大分県	由布市	5	9.3%
3	福岡県	北九州市	3	5.6%
4	大分県	日田市	2	3.7%
4	大分県	大分市	2	3.7%
4	大分県	竹田市	2	3.7%
4	大分県	玖珠町	2	3.7%
4	熊本県	未記入	2	3.7%

前年と比べ、日帰り旅行15.9%減となり、市内宿泊者の割合が10.8%増、市外宿泊は3.4%増加し、宿泊者の増加傾向がみられる。

日帰り旅行者は、前年は2時間～4時間未満が最も多かったが、今年は、4～6時間未満が6.4%増となり、最も多くなった。中津市内を概ね半日程度滞在する旅行者が多い。

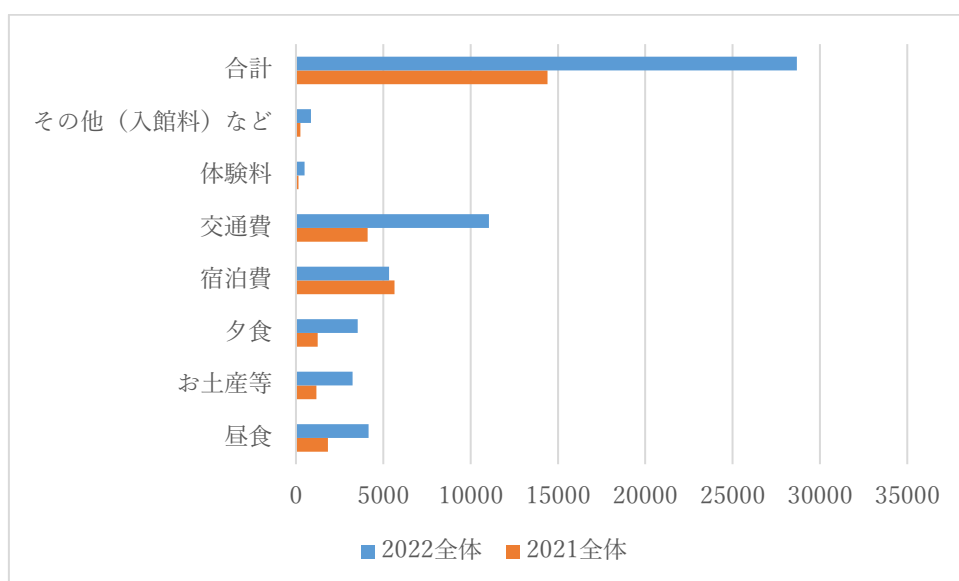
市内宿泊旅行者は、前年より増加したが、1泊のみの旅行者の割合も増加した。市外宿泊者の宿泊地は、前年同様別府市が最も多い。大分県内に宿泊する旅行者が、合わせて中津市に観光する割合が多くなっている。

問7. 今回の旅全体の予算額を教えてください。(おひとり様あたり) (回答率: 80.2%)

	昼食	お土産等	夕食	宿泊費	交通費	体験料	その他(入館料)など	合計
2022全体	4,150	3,246	3,534	5,339	11,059	490	864	28,681
2022宿泊(市内)	4,466	3,936	6,689	8,886	17,136	684	648	42,445
2022宿泊(市外)	7,198	3,942	6,828	13,963	22,259	647	2,321	57,157
2022日帰り	2,858	1,771	969	449	3,984	338	379	10,748
2021全体	1,834	1,180	1,238	5,644	4,106	139	260	14,399
2021宿泊(市内)	1,167	1,919	2,593	12,659	11,167	519	433	30,457
2021宿泊(市外)	4,280	3,275	5,013	30,775	13,875	400	545	58,163
2021日帰り	1,472	711	379	0	1,423	21	187	4,193

2022年は、全体(宿泊+日帰り)で28,681円となり、前年と比べ14,282円も増加した。この増加要因については、2総括の(2)④で記載した通り、調査方法の変更による影響、宿泊者数の増加による影響、全国旅行支援による消費額の底上げの影響等が推測される。

また、個別の予算についてみると、宿泊費以外は増加傾向にあり、特に九州・沖縄地方以外の来訪者が増加したことに伴い、交通費が大きく上昇している。



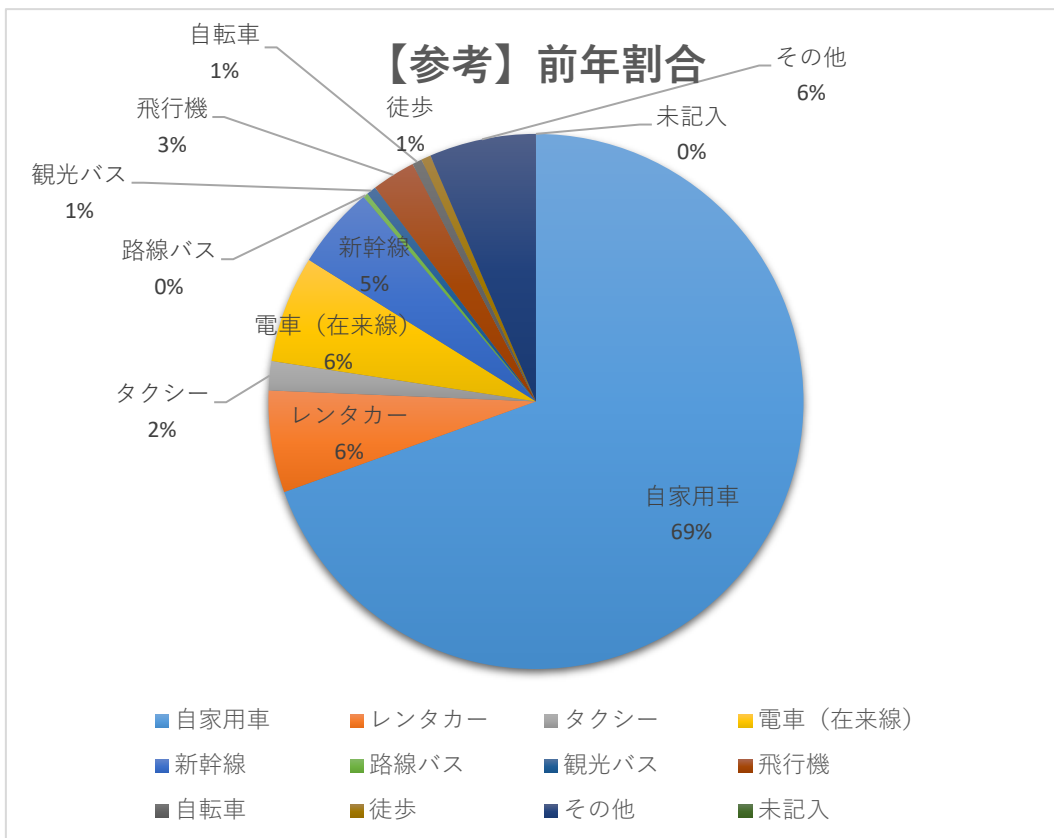
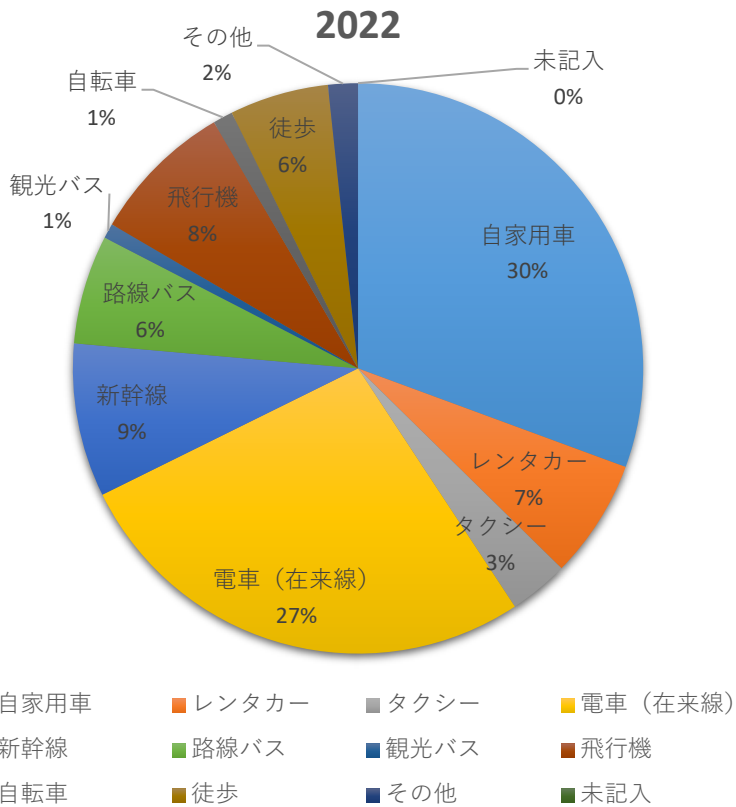
問8. 今回の旅の交通手段を教えてください。(複数回答可)

- 自家用車 レンタカー タクシー 電車 (在来線) 新幹線 路線バス
観光バス 飛行機 自転車 徒歩 その他 ()

●交通手段 回答率：100% ※複数回答有

	人数	割合	前年割合 (参考)
自家用車	109	30.6%	69.5%
レンタカー	24	6.7%	6.2%
タクシー	12	3.4%	1.8%
電車 (在来線)	96	27.0%	6.5%
新幹線	31	8.7%	5.0%
路線バス	22	6.2%	0.3%
観光バス	3	0.8%	0.6%
飛行機	29	8.1%	2.6%
自転車	4	1.1%	0.6%
徒歩	20	5.6%	0.6%
その他	0	0.0%	6.5%
未記入	6	1.7%	0.0%
合計	356	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色

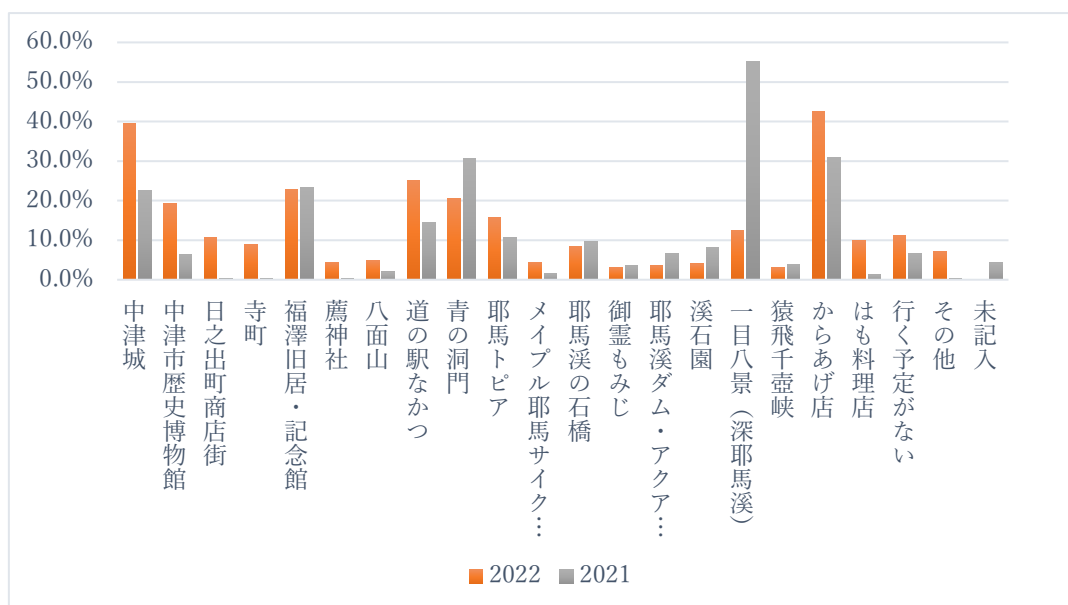


前年と比べ、自家用車の割合が大きく減り、30.6%となった。

これは、調査方法の変更による影響（中津駅の追加）及び、マイクロツーリズムが全盛だった前年は、個人・家族単位のドライブ観光の需要が高かったのに対し、全国旅行支援で九州・沖縄地方以外の来訪者が増加したことにより、電車や新幹線などを利用する旅行者が増えたからだと考えられる。

問9. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます（した）か。（複数回答可）

- | | | |
|-----------------------------------|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 中津城 | <input type="checkbox"/> 中津市歴史博物館 | <input type="checkbox"/> 日之出町商店街 |
| <input type="checkbox"/> 寺町 | <input type="checkbox"/> 福澤旧居・記念館 | <input type="checkbox"/> 薦神社 |
| <input type="checkbox"/> 八面山 | <input type="checkbox"/> 道の駅なかつ | <input type="checkbox"/> 青の洞門 |
| <input type="checkbox"/> 耶馬トピア | <input type="checkbox"/> メイプル耶馬サイクリングロード | <input type="checkbox"/> 耶馬溪の石橋 |
| <input type="checkbox"/> 御霊もみじ | <input type="checkbox"/> 耶馬溪ダム・アクアパーク | <input type="checkbox"/> 溪石園 |
| <input type="checkbox"/> 一目八景 | <input type="checkbox"/> 猿飛千壺峡 | <input type="checkbox"/> からあげ店 |
| <input type="checkbox"/> 鱧（はも）料理店 | <input type="checkbox"/> その他 | |



前年と比べ、中津城、中津市歴史博物館、日之出町商店街、寺町、からあげ店等、旧市内のスポットが割合を伸ばしている。また、一目八景（深耶馬溪）は、前年比で42.5%減となっている。

この変化は、調査方法の変更も要因と考えられる。2022年は、中津駅からの回答者が多く、対して前年は、一目八景（深耶馬溪）がアンケート調査場所であり、本アンケート総数の半分を占めていたことから、今回の調査結果の差がでたものとみられる。

平均訪問は、前年（2.37回）とほぼ同数の2.39回であった

問10. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。(自由記述)

料理名 () 店名 ()

●グルメ 回答率：83.4%

2021年より調査場所にからあげ店を入れたため、からあげが最も多く44.4%という結果となった。次いで鰻料理関連の回答が8.5%と割合が増えたのに対し、そばが1.8%となった。

全体	グルメ	人数	回答率	昨年割合 (参考)	店名
1	からあげ	99	44.4%	20.8%	もり山、イロトリドリ、ぶんごや、道の駅なかつ 他
2	そば・そば料理	4	1.8%	6.9%	耶馬トピア、満月 他
3	鰻料理	19	8.5%	1.0%	和風味処鬼太郎、瑠璃京、丸清、筑紫亭 他
-	未記入	37	16.6%	57.8%	

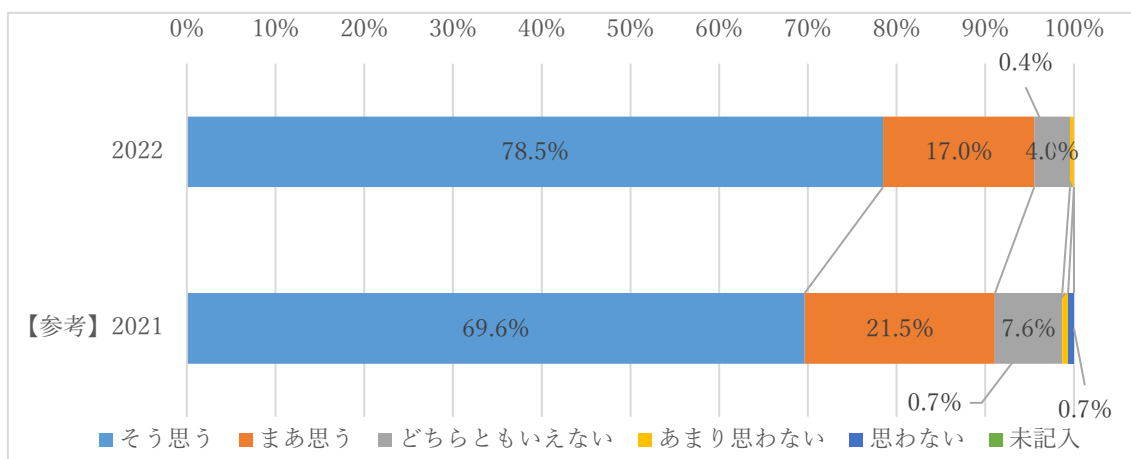
問11. (新設) 再び、中津に旅行に来たいと思いますか？

そう思う まあ思う どちらともいえない あまり思わない 思わない

●中津への再来訪 回答率：100%

回答	2022	【参考】2021
そう思う	78.5%	69.6%
まあ思う	17.0%	21.5%
どちらともいえない	4.0%	7.6%
あまり思わない	0.4%	0.7%
思わない	0.0%	0.7%
未記入	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色



前年から新設した質問項目であり、旅の満足度を図る目的で、再来訪の意向を確認した。中津へ再び来たいと思う割合は、そう思う78.5%、まあ思う17.0%となり合計95%を超えた。

問12. 中津市内の観光で困ったことはありますか。(自由記述)

集計結果は下記の通り

順位	回答	人数	具体例(一例)
1	特になし	44	—
2	アクセス・交通について	29	バスの本数が少ない、レンタサイクルの返却場所が分からない
3	環境について	13	案内看板が少ない／分かりにくい、駐車場が少ない
4	お食事処について	10	駅の近くでからあげが食べられない、飲食店が少ない
5	駅について	6	案内が少ない、コインロッカーが少ない、飲食できる店がない
6	観光施設について	2	英語表記の説明が欲しい、寺の堂内を拝観できる場所が少ない
6	宿泊施設について	2	宿泊施設が少ない
—	その他	5	紅葉がまだ見頃じゃなかった、土地勘のなさに困った
—	ポジティブな意見	7	楽しかった、おもてなしの心を感じられた、食事がおいしかった

以上